

# 報恩寺だより

No. 37  
 平成20年4月1日発行  
 おたすけ観音 報恩寺  
 綾瀬市寺尾南2-10-1  
 電話 0467-78-7160  
 F A X 0467-79-1567

## だいほんにゃきとうえごんしゅう 大般若祈祷会勤修について

5月17日は、おたすけ観音の縁日です。皆様の家内安全、身体健全、諸災消除、諸縁吉祥を祈り、大般若祈祷会を下記により行います。  
 お誘い合わせのうえ御参詣くださるよう、ご案内申し上げます。

### 記

期 日 平成20年5月17日(土)  
 日 程 午後1時 御詠歌  
 午後2時 法話(下飯田・東泉寺・関水俊道老師)  
 午後2時半 大般若祈祷会  
 午後3時 小斎

祈祷料(2,000円)は、この報恩寺だよりを郵送した封筒にいれ、  
 当日御志納お願い致します。

## 特別御寄進

次の方々から特別御寄進を頂きました。各位の御芳志に感謝すると共に供養菩提のご冥福をお祈りいたします。

平成19年3月	笠間 孝夫様	平成19年4月	高嶋 勝美様	平成19年9月	笠間 厚夫様
平成19年3月	森山 正幸様	平成19年4月	橘川 和秀様	平成19年10月	石川 晃様
平成19年3月	笠間 英博様	平成19年4月	笠間 厚夫様	平成19年11月	早川ヒデ子様
平成19年4月	武藤エミ子様	平成19年5月	奥津 寛保様	平成19年12月	橘川 雅弘様
平成19年4月	近藤 壽博様	平成19年9月	橘川 幸男様	平成20年2月	笠間 英博様
平成19年4月	橘川 春松様	平成19年9月	戸井田伸一様	平成20年3月	笠間 功様

### ◆ 報恩寺年間行事予定 ◆

4月8日 花祭り	12月8日 成道会(梅花講)
5月17日 大般若祈祷会	12月31日 除夜
8月7日 大施餓鬼会	1月1日 お年始詣
9月19日 秋彼岸会法要(梅花講)	2月 涅槃会
11月13日・14日・15日	3月 春彼岸会

永平三世徹通禪師七百回御遠忌 檀参旅行

## 第35回 梅花流管内奉詠大会

主催 曹洞宗神奈川県第二宗務所



## 第三十五回 梅花流管内奉詠大会

平成19年11月24日(土)神奈川県横浜市鶴見、鶴見大学附属女子中高等学校・記念講堂で行われ、第35回梅花流管内奉詠大会に参加しました。  
 奉詠曲は「地藏菩薩御詠歌」をお唱えいたしました。  
 また、平成20年度は11月5日(水)に同会場にて開催予定です。今年度、報恩寺講は大会に向け「四摂法御和讃」を練習中です。

## 額の紹介

報恩寺本堂の大間正面に掛かっている額です。  
 これは大本山永平寺六十七世黙道慧昭禪師の筆によるもので「心安如海」心安きこと海の如くと書かれております。従容録の中にこのように書かれています。



頌云、  
 夢中擁衲參耆舊、  
 列聖森森坐其右。  
 當仁不讓韃椎鳴、  
 說法無畏獅子吼。  
 心安如海、膽量如斗。  
 鯨目泪流、蚌腸珠剖。  
 譚語誰知泄我機、  
 龐眉應笑揚家醜。  
 離四句絶百非、  
 馬師父子病休醫。

頌に云く、夢中衲を擁して耆舊に參ず、列聖森森として其の右に坐す。仁に當って譲らず韃椎鳴る、說法無畏獅子吼す。心安きこと海の如く、膽量斗の如し。鯨目泪流れ、蚌腸珠剖る。譚語誰か知らん我機を泄すことを、龐眉應に笑うべし家醜を揚ぐることを。四句を離れ百非を絶す、馬師父子病に醫を休む。

# 太樹弁事を勤める。

平成19年11月23日綾瀬市早川の長泉寺さまにおいて報恩寺徒弟、加藤太樹(8歳)が首座法戦式で弁事を勤めさせていただきました。

首座法戦式とは修行僧の第一座である首座和尚の力量を確かめるための禅問答です。首座和尚さんは秦野・鶴巻温泉・極楽寺の徒弟、守本善英さん。

法戦式の弁事は僧侶としてはじめての大行事です。お話をいただいたのは一ヶ月半前でした。難しい禅語や禅問答を覚えるには、十分な時間がありませんが、めったにある機会ではないので思い切ってお受けすることにしました。

まずは禅問答の基調となる「頌」から覚えなければなりません。風呂場や台所と目



につく場所に頌と問答を張り、母親も一緒に練習し、あつという間におぼえてしまいましたが、大きな声でゆつくりと発音するのは至難の業です。本人も現場の雰囲気からわからないので、次の問答も覚えて一安心してしまい、実践的な練習は難航しました。

本番は多くの方丈さん達が見守る中、本堂の真ん中で百戦錬磨の修行僧と法を戦わなければなりません。そんな息子のために緒子(袈裟)を縫ってあげることにしました。一針一針心を込めきつと大丈夫、立派にできると念じて縫いあげました。お父さんとお母さんが縫った緒子がついていて、



子がついていて、

そんな気持ちが通じたのか、本人も気に入って大事に使ってくれていました。親の気持ちをお父さんやお母さんには気が合が入らず、とうとう本番前日を迎えます。

前日の晩は本番さながらの進退馴らしを行いました。首座和尚さんは大学4年生、太樹と同じ頃に、三回も弁事を勤めたつわもの、その他の問答をする人も本山の修業を終え、プロの修行僧とでもいうような顔ぶれです。その問答のやり取りはまさに真剣勝負、本堂中の鐘や太鼓が共鳴するほどの迫力です。

それを目の当たりにした太樹も緊張のあまり覚えていないはずの問答が止まってしまい、そこでようやく本気モードにスイッチオン、今まで「絶対無理、出来ない」と言っていたのが「今から帰って猛特訓をする」と言い出しました。が、なんと私の

都合が悪く猛特訓はできません、すると「今日は早く寝て、明日の朝早く起きて特訓をする」と言います。すばらしい負けず嫌い、なんと前向きなんでしょう。時間はありますがとにかくできるだけの努力をして、最善を尽くしました。



写真は長泉寺新命方丈さんとの問答の様子  
太樹「ほとけさまってなんですか」



長泉寺新命「太樹くんには、おじいちゃんがいるね」  
太樹「はい」  
長泉寺新命「お父さんやお母さんもいるね、みんなが尊いほとけさまなんですよ。」

・中略・  
太樹くんやみんなを幸せにしてくれるのがほとけさまなんですよ」  
太樹「吉祥 吉祥 大吉祥」

## 太樹の法戦式の頌と問答

天童の覚和尚、頌に伝く、廓然無聖。來機運庭。得は鼻を犯すに非ずして斤を揮い、失た頭を廻らさずして甌を墮す。寥寥として小林に冷坐し、黙黙として正令を全提す。秋、清して、月、霜輪を転じ、河、淡して、斗、夜柄を垂る。繩繩として、衣鉢、児孫に付す。これより人天、葉病と成る。これより人天、葉病と成る。獅子吼、不尽。

平常心是道

問 作者は、平常心是道。乞尊意。

答 唯だ揀扱を嫌う。

問 中々、如何なるか不揀扱。

答 茶に逢うては茶を喫し、飯に逢うては飯を喫す。

問 正得、わずかに語あれば是れ揀扱。

和尚、如何が某甲の為にせん。

答 黒漆の崑崙、夜裡に走る。

珍重。

万歳。

# 報恩寺梅花講

平成十九年五月十六日・十七日

梅花流創立五十五周年記念奉讃大会に参加してきました。会場は「さいたまスーパーアリーナ」で開催され、全国大会全体では一万六千人の梅花講員と檀信徒が参加し、神奈川県第二宗務所からは約五百名近い参加者があり、報恩寺からは二十三名の梅花講員が参加しました。

一日目は報恩寺を朝早く大型バスで出発し会場に向いました。開会式には幻想的な光と天井からの「散華」による演出には皆さん感動されていたようです。



開会式の演出は「散華」が会場いっばいに舞い飛びとても幻想的でした。

報恩寺梅花講は二十五年の奨励賞を六名、五年ごとの年功賞を二十五名の講員さんが表彰をうけました。

さいたまスーパーアリーナの中にバスごと乗り入れることができます。

登壇奉詠では報恩寺講からは十名が参加し、「観世音菩薩御和讃」、

「観世音菩薩御詠歌」を静岡第一宗務所、静岡第二宗務所の合同登壇で約六百人という大舞台でした。これは神奈川県第二宗務所の管内大会の参加者と同じ数です。

清興では歌手の谷村新司さんのトークと歌で大いに会場を盛り上げられました。その後、大会会場を後にし、栃木県の川治温泉でゆつくりと温泉につかり、大会の緊張をほぐしました。

二日目は朝からの雨模様でしたが霧降高原など日光方面を観光してきました。

2日目は日光方面の観光ですが、あいにくの雨模様でした。バスから降りると雨も一休み、霧降高原つつじヶ丘・霧降の瀧見学・散策。この直前まで瀧が見えていたのですが、急に霧がかかってしまいました。



雨のおかげで満開の山つつじと新緑のコントラストが鮮やかでした。

